

イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

清藤真樹¹

目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁海況情報として漁業関係者に情報提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）におけるイカ類の月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

結 果

1. 学習会の開催

平成26年4月24日に八戸市で中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果から得られた前漁期の状況、資源の状況等について説明した。また、5月27日に東通村（連合研究会）、6月6日に泊漁業協同組合において、それぞれ小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、スルメイカの前年の漁況、（独）水研センターの調査結果、本県の漁況について説明した。

2. 漁獲動向調査

(1) 近海スルメイカ

2014年度の近海スルメイカの水揚動向について、主要港全体でみると、水揚げ量は4,716トンで、前年比85%、近10年平均比62%であった。また、CPUEは388.0kg/隻で、前年比95%、近10年平均比77%であった。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鯨ヶ沢・深浦港）の水揚量は639トンで、前年比52%、近10年平均比62%であった。また、CPUEは387.0kg/隻で、前年比84%、近10年平均比92%であった。大畑港の水揚量は1,099トンで、前年比126%、近10年平均比53%であった。また、CPUEは348.4kg/隻で、前年比117%、近10年平均比57%であった。白糠港の水揚量は946トンで、前年比81%、近10年平均比80%であった。また、CPUEは242.4kg/隻で、前年比91%、近10年平均比82%であった。八戸港の水揚量は3,082トンで、前年比88%、近10年平均比59%であった。また、CPUEは589.7kg/隻で、前年比94%、近10年平均比88%であった。

(2) 船凍スルメイカ

最近5年間（2009～2013年）の動向をみると、延べ航海回数（水揚げ回数）は194回から271回で、平均220回となっている。2014年は143回で、前年比73%、近5年平均比65%となった。また、同期間の八戸港における船凍スルメイカの年間水揚量は12,431トンから19,384トンで、平均15,422トンとなっている。2014年度は10,910トンで、前年比88%、近5年平均比81%となった。1航海当りの水揚量は64トンから73トンで、平均70トンとなっている。2014年度は76トンで、前年比120%、近5年平均比109%であった。

¹青森県農林水産部水産局水産振興課